

第4回中部圏広域地方計画有識者会議（概要）

日時:平成27年12月14日(木)15:00～17:00

場所:ホテルメルパルク名古屋 2F「平安」

1. 開会

(中部地方整備局：茅野局長)

- ・中部圏広域地方計画については、昨年12月以降、委員の皆様方から、3回に渡り、会議において意見を賜り、本年9月の協議会で、中間整理として取りまとめたところである。
- ・中間整理では、我が国の成長エンジンの一翼を担っていく中部圏の将来像を、暮らしやすさと歴史文化に彩られた世界ものづくり対流拠点中部として、その実現に向けて、ものづくり、リニアスーパーメガリージョン、地域の個性と対流など、5つの基本方針を示したところである。
- ・現在、中間整理を踏まえ、基本方針に係る具体的な戦略として、今後10年間にわたり取り組むプロジェクトの検討を進めている。そのプロジェクトを含めた最終的な計画については、3月の年度末を目標に、国土交通大臣決定を目指しているところである。
- ・本日は、広域地方計画のプロジェクトの検討にあたり、枠組み等の考え方を説明した後、皆様方からご意見を賜りたいと考えている。
- ・並行して進めている中部ブロックにおける社会資本整備重点計画についても、進捗状況、考え方等について報告させていただく。
- ・委員の皆様方には引き続きご指導賜りますようお願い申し上げたい。

(事務局：松岡中部圏広域地方計画推進室副室長)

- ・江崎委員、大西委員、辻本委員は欠席

3. 議事

(奥野座長)

- ・本日、4回目となるが、この会議が最終回の予定と聞いている。過去3回にわたり、大変熱心なご議論をいただき、随分良いものがまとまりつつあると感じている。さらに本日もご議論いただいて、ブラッシュアップできればと思う。

1) 新たな広域地方計画策定の状況について

(事務局：森山企画部長)

- ・資料1-1、資料1-2、資料1-3、資料1-4、資料1-5説明

2) 新たな中部圏の実現に向けた戦略(案)[プロジェクト]について

(事務局：大野中部圏広域地方計画推進室長)

- ・資料2説明

(奥野座長)

- ・資料2のテーマを中心に、ご意見をいただきたい。

■意見交換

(染谷委員)

- ・前回お休みをしたので、ここまで計画がまとまってきていることに敬意を表したい。素晴らしい出来だと感じた。
- ・ものづくり中部圏ということでは、攻めの姿勢が出ており、計画的にも素晴らしいが、私の視点から見ると、もう少し打ち出すべき点がある。
- ・P25のPJ9では、多様な人材、女性活躍、高齢者参画、障害者共生、多文化共生と、一通り全てが並んでいるが、切り口として目新しさがない。
- ・中部圏は、健康長寿の高齢者社会、活躍できる社会を目指すというような表現を入れてはどうか。今、寿命が長くなっており、男性80歳、女性87歳であるが、概ね10年は誰かの支援がないと、生活ができず、健康長寿は低い。男性で73歳である。
- ・健康長寿を伸ばすことで、生き生きと活躍できる社会の形成が具体的に出てくるのではないか。
- ・女性の活躍も、雇用の安定、人材不足からすると、待ったなしである。人材育成により、1億総活躍、女性が輝く社会と言っているが、現実にはそれだけ育てられていない。女性の人材を育成する場を明確にした方がよい。
- ・高齢者の参画はまさに、働く場の担い手、次世代の人材育成、地域の担い手として位置づけると、ここはもう少し肉付けができるのではないか。
- ・リニアに対する大きな期待はある一方、静岡県内にはリニア駅がなく、工事だけなのだが、それに伴う環境問題が大変大きくクローズアップされている。水を守る、水が濁らない様にする、南アルプスの自然環境を守るということがとても大きな課題となっているので、是非、リニア整備に伴う自然環境や生活環境への影響を最小限に留める取組みを推進するよなという文言を入れていただきたい。
- ・富士山静岡空港の位置付けもしていただきありがたい。富士山静岡空港は、首都圏に大きな災害があった時の、支援拠点として、防災の拠点空港でもある。防災上の位置付けも明確にすると、首都圏のバックアップ体制がもっと明確になるのではないか。
- ・訪日外国人の観光については、中部圏の魅力を具体的に上げていくといいのではないか。様々な国（アジア、ヨーロッパ、アメリカ、イスラム）のニーズに沿った観光を作っていくことも大事である。イスラム旅行者は、大変なニーズになってきており、アジアにも中東にもたくさんいる。迎え入れるためには、宗教に沿った食（ハラール）から準備しなくてはいけない。このようにターゲットを絞ると、ターゲットに合わせてどのような体制を整えるべきかがわかる。
- ・観光一般ではなく、中国から、アジアから、イスラム圏からというように、ターゲットを絞っていく中で、サインの統一化、安心できる食事の提供等、受け入れる人に添った体制を構築するということを明記するとより具体化していくのではないか。

(伊藤委員)

- ・これまでの議論がきちんと折り込まれ、構成もわかりやすいと感じる。

- ・北陸との関係も、各プロジェクトの中に取り込まれており、上手くまとめられている。
- ・各プロジェクトの内容に、もう少しタイムスケジュールを加えられると良い。
- ・広域地方計画は、今後 10 年間の長い計画を立てるものなので、目標年次がはっきりしないと、先送りにされたり、実行せずに終わったり、遅れたり等が起きがちとなる。10 年間のスパンの中でも、できるだけ、完成、開催時期、開催回数を意識し、実行することが重要ではないか。
- ・例えば WI-FI 環境の整備では、オリンピック・パラリンピックの時期を意識するなど、具体的な時期のイメージを出していただくと良い。
- ・連携については、中経連の三田会長も、常々、連携が大事だと述べているが、大切なのは、連携という言葉だけでなく、より具体的な連携の姿を描くことである。計画を推進するにあたり、隣の県・市町村、産学官、中小企業等、様々な連携がある。各項目において、連携が必要な場合は、連携内容や相手などについて、もう少しイメージを出されると良い。また、人づくりの分野について、もう少し記載がされると良い。
- ・ものづくり産業の強化、観光まちづくりの項目のところでは、産学官連携や広域連携など、様々な記載がされているが、方針 5 の人材育成と共助社会の形成の具体的な戦略として掲げられている、9. すべての人が輝くひとづくり PJ の中には、連携という記載がない。女性、高齢者、障害者、外国人、どの分野においても、政策の遂行には幅広い分野の協力・連携が必要である。もう少しこの分野で連携に触れてはどうか。
- ・今回の有識者会議が最後ということだが、せっかく立派な計画ができあがるので、今後は PDCA をしっかり回して、より実りの多い計画・実行となるよう願っている。

(奥野座長)

- ・コンパクト＋ネットワークの、ネットワークは、どのあたりが広域かというのも、地域によって異なるが、やはり連携が大事である。広域連携を意識した政策を、これから国の方で打ってもらえると思う。

(内田委員)

- ・P12 の 4. 中部圏創生暮らしやすさ実感 PJ の、地域経済の活性化のところに、農林水産業の活性化の記述がある。最近、TPP の大筋合意を受けて、例えば、スズキが農機具開発を行ったり、トヨタグループのアシストスーツの開発や、デンソーの空調管理システム等、大手自動車メーカーが農業分野を支援する動きを強めている。自動車メーカーの生産ノウハウを農業に活かす、農工連携の取組が進んでいるので、そのあたりを、地方創生の農業活性化のあたりで触れられるといいのではないか。
- ・東海は、愛知県を中心に近郊農業も盛んだが、一方、北陸は米専業農家の割合が高く、ブランド米などの高付加価値化のほか、生産効率を高める支援体制の記述もほしい。
- ・通常コンパクト＋ネットワークは、駅前地区の再開発で各種機能を集約するイメージで、そのあたりの内容は入れ込んでいただいているので、この地域独自のコンパクト＋ネットワーク化の方向性として、前回の委員会でも言及した、車社会を前提にした道の駅の拠点化などの記述も P11～12 あたりで検討してはどうか。
- ・P6 のスーパーメガリージョンでは、リニア効果の広域的な波及という箇所、観光を意

識した方向性から中部空港の機能強化を入れていただいているが、インバウンド観光の広域周遊ルートを支えるインフラ基盤は、国内に入ってから高速道路や高速鉄道ネットワークが中心となる。それらをもう少し強調してもいいのでは。また、訪日客の玄関口としては、セントレアと大型クルーズ船の需要を取り込む港湾機能も重要になる。特にセントレアはLCCの路線数・便数が急増しているので、LCCというキーワードもどこかに入れておいた方がよい。

- ・スーパーメガリージョンの箇所では、東名阪は2045年にリニアが全線開業予定であり、2027年度の東名開通の先を見据えて、スーパーメガリージョンがメディアで積極的に取り上げられるようなキャッチコピーが不可欠。マスコミ受けしそうな、例えば「名古屋圏は『SMR45』のセンター」というようなコピーがあってもいいのではないか。

(奥野座長)

- ・スーパーメガリージョンは内田委員ご指摘のように、まさに広域連携の要である。
- ・1つは、首都圏は西に向かって、中央日本まで含むようなスーパーメガリージョン、それから中部といったイメージである。関西の方ではまだ具体的なイメージはなく、東京・名古屋・大阪が一体となって、スーパーメガリージョンを支えるというような表現がされている。
- ・そのあたりは、国が取り組むべきテーマであろう。広域連携として、すぐに考えるべきテーマだと思われる。
- ・名古屋では、名古屋市を中心に議論がされており、名駅周辺整備を中心に検討が進んできている。

(大野委員)

- ・全体的に、ありとあらゆる分野を網羅した計画が立てられていると思う。
- ・タイトルに、暮らしやすさと歴史文化に彩られた世界ものづくり対流拠点とあり、ここから、自然、環境が消えているという印象と、各プロジェクト間の関係がわかりにくいと感じる。
- ・この地域で戦略的環境アセスメントをやるということを宣言すれば、ある程度関係づけができると思う。あるいは、地域計画ということで、各地域の生態系サービスを考慮していく等でもよい。
- ・例えば、欧州景観条約で約束されているような、バランスの取れた地域の持続的な開発を目指すといった視点が見られないのを憂慮している。
- ・観光に関しても、対流は大事だが、実際問題として、平均滞在日数等、いかに滞在するかが各地域の経済効果には効果があるのではないか。

(加藤委員)

- ・農業の観点からいくつか申しあげたい。
- ・P12に農林水産業の活性とあるが、物流というワードが見当たらないのが気になる。地域を作るのにも物流が大事で、物流会社がなくなってしまうと、出荷ができない。キャベツが高止まりしているのも、それが原因である。遠隔地からキャベツが東京・大阪へ

来なくて高止まりしているので、「物流」という言葉を必ずキーワードとして入れてほしい。

- ・私は、先ほど内田委員のおっしゃったスズキの件に係わっているが、農工連携は新たな産業を作りだすと思い、活動している。
- ・先般、国際ロボット展がビックサイトで開催された。農水省と一緒に協議会を立ち上げており、ブースを NEDO の横で出展した。非常に受けが良く、世界各国から引き合いがあり、評価を頂いた。大企業各社からもスズキと一緒にオープンイノベーションをやりたいとお声掛けいただいた。
- ・本業だと、秘密ごとが多くて、なかなか連携が進まないのが、農業を軸にすると、色々なイノベーション（会話）がしやすくなると実感している。色々な新産業を生み出すイノベーションの場として、農業を軸にというのは可能性が高いと感じている。可能であれば、農工連携による新産業創造といったキーワード入れてもらえるとありがたい。
- ・P21 の国土保全でのところで、農業者から意見をいただいている。景観を守るのはいいが、非常にお金がかかるため、農水省の生産という意味での補助だけでは、維持が難しい。国土保全というキーワードで、何かしら援助いただけると、しっかり守れるという意見を頂いているので、ご検討いただきたい。
- ・P25 の多文化共生だが、ご存じのように、農業は非常に人手が不足している。各国から技術研修生と称した人材を活用しながら、ようやく回っているような状態である。
- ・先日、ベトナムで情報交換してきたが、若い農業に関心のある若者を 10 万人くらい送り込めるといった話があった。
- ・中部圏は既に色々な多国籍の方が入っている地域になる。東北とは比べ物にならないくらい、色々な目的の方がいる。そういう意味では TPP を契機に、TPP を契機に、多文化共生が得意な地域としてブランディングできるのではないか。

(木村委員)

- ・共助社会に関して、人材育成、連携という切り口でお話をしたい
- ・地域づくり、まちづくり、防災の強化、持続可能社会の形成、人づくりなどにも関わってくると思う。
- ・これらの問題解決は、役所だけではできない。前回、財源を民間からということで、成果の話を見せていただいた。人材育成にお金を投じたら、何をやったかではなく、それによって、人の意識や行動がどう変わり、ひいては、地域や社会がどう変わったのか、効果を明確にできないと、なかなか民間投資に結びつかないという話をしたと思う。
- ・奥野座長が座長となっている、共助社会づくり懇談会でも、今月より WG が立ち上がった。まさに、それは成果のことである。ワードとしては、社会的インパクト評価という言葉でワーキンググループがある。今後、そういったものが求められていくという意味では、そういうワードで表現できるとよい。
- ・12 月 1 日の日経新聞の社説でも出ていたが、官民連携で今年から寄付月間という動きが生まれている。
- ・また、今月、高齢者を中心に関心が高まっている遺贈寄付の推進を検討する「全国遺贈寄付（レガシーギフト）推進検討委員会」も発足している。

- ・そういった流れを作っていくためには、成果、社会的インパクト評価が大事である。
- ・もう1つ、プロボノというワードを入れていただき、新しい社会参加の形を、単なる時間労働力としてのボランティアではなく、本業で培ったスキルや経験を活かしていくようなボランティアの形を示していただいたのは非常にありがたい。
- ・この地域は、ものづくりの企業が多いが、ものづくりの企業におけるプロボノ、スキルベースのボランティアが何なのかを最近常々感じている。
- ・例えばデンソーの人材育成のテキストを見せていただくと、仕事の定義は課題解決と定義されている。それはまさにものづくりの原点であり、NPO が社会の中で課題解決に取り組んでいく中で足りない部分ではないか。
- ・組織が課題だけでPDCAを回すのではなく、そこで培われたノウハウを用い、社会課題解決（理想と現実を埋めて行く）の力を発していただく部分として、必要な取組であると感じる。
- ・5年、10年先に皆が知っているような問題を先取りして挑み、NPOへ人材を送り込んでいくような仕組みを作ると、本業で培われたノウハウを活かして、社会でPDCAを回していくときに、社会に伝えていくノウハウが生きていくような相乗効果があるのではないかと、プロボノの話も付け加えさせていただきたい。

（奥野座長）

- ・社会的インパクトについては、個々のNPOの活動について、ボランティアに参加してもらったり、寄付を受けたり、購入をしてもらったり、ということをするわけだが、そのためには、その活動が社会に対してどういうインパクトを持っているのかを、NPO自身が発信していくことが重要である。
- ・ただ、その評価は難しい。普通のNPOがそれをちゃんと評価できて発信できるようなものを作らないといけないので、今から集中的に議論していくことになる。ワーキングができ、木村委員もそこでご活躍いただいている。私は委員ではないが、出てみようかと思っている。

（後藤委員）

- ・全国総合開発計画から、国土形成計画に代わって2回目ということだが、前回の1回目の時にも、参加をしている。今回、2回目となり、非常に充実した計画ができたのではないか。それぞれの広域ブロックで計画を作るという趣旨を踏まえ、下からの意見を聞いて積み上げていったことで、非常に丁寧な計画づくりとなっており、感謝している。
- ・「4.暮らしやすさの実感PJ」には、コンパクト+ネットワークというキーワードが入っており、小さな拠点としての道の駅という、この中部圏にとっては非常に大事な記載がある。市町村合併が一段落して、中部圏内には市町村の範囲がかなり広域になっているような地域があるが、それぞれ合併前の単位で非常に豊かな歴史や文化、そして共助の精神ができていたとことがある。合併後の市町村が、元々の単位を大事にしながら、全体として、コンパクト+ネットワークになっていくように、道の駅がそれを理解し、それぞれの地区の暮らしやすさや、歴史・文化等を発信するようなことが必要である。住民が地域へのそれぞれの愛着を活かしながら、全体として維持できるようなことにも寄与

していく、そういった点にも目を向けてはどうか。

- ・P14～15の「快適・安全安心生活環境実現PJ」のあたりになると思うが、入れたもらった項目で大事だと思った項目がある。
- ・1点目は、犯罪の防止である。日本は海外に比べ、都市部でも農村部でも、安心して歩ける良い地域だが、これからのグローバル化、観光客の増加により、それが喜ばしい一方、日本のこれまでの安全・安心が崩れていく可能性もあるので、犯罪の防止に気を付けたまちづくりに一層取り組み、それが失われないような視点をさらに強調していただきたい。
- ・もう一点は、高齢者の交通事故についてだが、これから高齢化率が上がり、認知症を抱えた高齢者の方が増えていく時の運転免許の問題がよく取り上げられている。しかし、過疎地域では、一律の年齢で免許を停止することができない状況である。地域社会の中で、いかに、そういった方たちの移動手段を確保するか、本当の意味で、最後までその地域で暮らせるかどうかが重要である。これまで、福祉有償運送等も試みられてきたが、なかなか使いづらいこともあり、補償になっていないようなところがある。高齢者の交通事故対策について、地域づくり、道路づくりと結びつけてやっていただけたらと思う。
- ・PJ9、10のところで、ひとづくり、共助、つながり等、ソフト面について丁寧に書きこんでいただいているが、こういったことは、どちらかというところ、市町村や地域がやることであり、既に取り組みされていることである。その上で、今回の広域計画として、少しでもかさ上げしていくようなことをやるのか、優先的に手をあげて実施したものを発信し、かさ上げをはかるというようなことを誰がやり、どのような順番でやるかが分かるようなプロジェクトになるといいと感じた。

(佐々木委員)

- ・産業界からの立場で話をさせていただく。
- ・戦略産業の各論については、しっかりと書き込んでいただきありがたい。
- ・全体的に、ここ10年くらいできちんと実現できれば、多分、中部地区は、世界中の産業に係わる人から、あそこに行けばビジネスチャンスがある、あそこの企業と組んで、何かをやりたいという魅力ある地域になるのではないかと。そこを目的として、10年後はそうなるぞという目的意識をもって、各論に対して産官学で是非やっていきたい。
- ・中部地区のものづくり産業が盛んだという背景には、品質経営というか、品質を主体に置くということを実践し、愚直にやり続けた結果、今の産業があると思っている。
- ・どちらかというところ、品質管理学会などの品質管理の世界は、東京中心だが、実は、そういったところで会議をやった後、各国の代表が見に行きたいのは中部の会社である。そういった会議をどんどん誘致して、中部の良さを発信できるようなことを考えたらいいのではないかと。
- ・産業の基盤ということで、国土をしっかりと捉えていただいていることは本当にありがたい。先ほど、農業の物流の話もあったが、最後はやはり、モノがスムーズに動くことが産業界にとっての競争力の非常に大きなポイントになるので、是非お願いしたい。
- ・もう1つの産業基盤として、エネルギーがついてくる。脱炭素社会と言われて久しいが、最終的な動力は電気が非常に重要になる。電気と非常に親和性の高い元素としては、水

素があげられる。いずれにせよ、遠い将来には水素社会という議論もある。北九州や首都圏では、水素社会を目指して実証実験が盛んに行われているので、中部地区も、是非まけないように展開をしていきたい。

- ・産業で働いていただける方について言うと、キーワードはダイバーシティである。全ての人、多様な人たちが働ける環境、外国人、高齢者、女性、障害者などにも戦力として働いていただけるような、行政の支援だけでなく、社会インフラの整備と企業自身の取組みを一体的に進める活動が肝要だろうと考えている。
- ・中部圏と北陸圏の広域連携については、産業振興の面、産業界がリスク管理をしなければいけないという面についても、大変ありがたい記述をしていただいている。是非しっかり進めたい。やはり、これも物流のところで若干、北陸と中部地区の物流ルートが必ずしも太いわけではないので、ここは是非、ご協力いただきたい。
- ・産業界がこれからの地方創生を考えていく時に、その地方、地方、特に中山間地で暮らす人たちの利便性をしっかりと確保した上で、そこに職場をつくるということが必要であろう。今、盛んに言われている自動運転の技術等を使い、高齢者の方にも安全に車を利用いただくことを考えると、特区的なもので実証実験を進めていかななくてはいけないと思う。ある地域では、特別なレーンを引いて、半無人化みたいな車が動き回る自由度を確保していただくことにもご協力いただけるとありがたい。

(高木委員)

- ・全体的にはまとまってきたと思う。
- ・4点、話をしたい。
- ・1つめは、一般的に見て、東海環状自動車道の西周りの話がどこにも出てきていない。既に、現在事業が進行中なので、既定路線なのかなという気もするが、2020年の完成と言われているものが、本当にできるのかが怪しい。もちろん、物流や地域のものづくりに絡むが、例えば、P17に南海トラフのサポートの、串の歯作戦の話が書いてあるが、ここにも西周りのルートがない。一体、西周りのルートはどういう位置づけになっているのか確認をし、記述をお願いしたい。特に、岐阜県から三重県に直接支援をしていくためには、このルートが非常に重要だと思っている。
- ・2つめは、リニアの駅を交流連携に活用していくのは評価できるが、P10の昇龍道については、長野県駅、岐阜県駅とも記述がない。開通が少し先なので、将来的なことかもしれないが、リニアは派生需要的な交通ではなく、観光の目玉としても使えるのではないか。そのあたりも、前倒しで議論があってもいいと思う。
- ・3つめは防災の話で、南海トラフ巨大地震のことだが、特に沿岸域の津波のハザードのところが最近見直されている。都市計画的に言うと、都市計画区域でうって、かつ、区画整理をやっているところが、想定を見直した関係で、浸水想定地域へ入ってきている。そういうところの問題が非常に大きい。もちろん、そこから町が撤退することはあり得ないが、都市計画として整備してきたところに住民の方が住んでいるということも、もう少しきちんと捉え、最近では、地区防災計画というコミュニティ単位の防災計画を作るようなことになっているが、その部分のところは、国交省が口出しをして、本当に補助事業のメニューを出していかないと、市町村だけではやれないので、是非考えていた

だきたい。

- ・4つめは、コンパクト+ネットワークということで、これも当然やっていかななくてはいけない非常に重要なことだが、一方で、まだまだ地方の都市計画なんかを見ていると、いまだに区画整理をやっていて未利用地を開発したり、白地などもどんどん開発されるということが起こっている。現場とコンパクト+ネットワークというのが、ちょっと制度的に齟齬がある。
- ・思いきった事を言うと、都市計画区域の逆線引きという言葉があるが、そういうことまで、踏み込んでいかないといけない。立地適正計画の中で、イメージ図はあるが、そういうところまで踏み込んでいくことを、本気でコンパクト+ネットワークを考えるなら、していかななくてはならない。

(奥野座長)

- ・東海環状の西側はもちろん計画があつて、予定どおり事業が進んでいると私は理解しているが、そういったことでよいか。

(事務局：森山企画部長)

- ・高木委員がおっしゃったように、くしの葉作戦の時に西側を前提としていないということではなく、今現状あるものでどうやっていこうかと計画を作っているということがあつた。先々、使わないわけでは決してなく、ここの時間軸は、今、ということなので語弊がないようにしたい。
- ・個別の事業の記述はルールもあるので、それも踏まえながら、書けるものは書いていきたいと思っている。

(奥野座長)

- ・高木委員のおっしゃった都市政策のことだが、日本全体としては人口減少社会で、各地域、地域で事情は違うと思うが、その中で、経済成長を実現させていかななくてはならない。都市政策がどうあるべきかは、非常に大きなテーマである。
- ・今の段階で確定したことは言えないが、おそらく、これも国土審議会の中にそういう分科会があり、これからのテーマになっていくと思う。

(牧野委員)

- ・有識者会議は今回最後ということなので、最後の報告書がどういう論調で書かれるのかを想像しながら、となるが、奥野座長から話があつたように、日本全体としては、人口減少、少子高齢化という流れの中で、それに対応した国土づくりをどう進めるか、それを中部圏に置き換えるとどういう議論になるかというところが、必要になってくると思う。
- ・伊藤委員からも話しが出ていたように、社会インフラの整備と産業基盤の強化を有機的に結びつけていくことが、どうしても必要になる。
- ・道路が通り、産業基盤が出来ていったらいいということではなく、道路が出来た時には既に産業基盤についてもある程度戦略的に進み、強化も出来てきているというような、

スケジュール感をどれだけこの中に打ち出していけるかが重要である。

- 以前のように、社会インフラを進めれば、産業基盤の強化、暮らしやすさみたいなものが出てくるというようなことにはおそろにならない。このところはかなり、戦略的な考え方が必要になってくるだろう。これは、どのプロジェクトがということよりは、全体の論調として、どういう風に出していくかという話かもしれないが、おそらく、この右肩下がりの時代の中での考え方としては必要だと思う。
- 広域連携が非常に大事だというのは、この中でも打ち出されているが、広域連携の事例があげられているだけではなく、優れたプロジェクトをどう横に展開していくか、他の地域でも取り入れた方がいいと思われるプロジェクトを、どういう形で展開していくか、という視点が必要である。
- 都市間あるいは都市圏間において、どの都市においても同じような機能をフルセットで持つのはもはや不可能である。定住自立圏においても、そういった議論がなされてきており、そういった考え方が、これからますます増えていくだろう。その時に、道路交通網や鉄道網といった交通網を使って、どういった形で都市間の機能を補完していくかということを、しっかりと考えていかななくてはならない。
- いつもこうした議論で悩むのは、地域にとって、フルセットの機能があれば、もちろん住民の皆さん方は喜ぶと思うが、もうそういう時代ではない。どういった形になれば、機能補完が図れるのかがなかなか見えないので、その議論がずっと続くことになる。
- 小さな市町村であっても、大きなスタジアムが欲しい、大きな体育館が欲しいという希望が出ないわけではない。ただ、そういったものは、リニアがあれば十分、名古屋なり東京なりが近くなるのだが、そこに行ってみればいいじゃないか、年に1回か2回しか使わないものを、本当に作るのか、という議論はありうる。そういったことを、どういった形で補完機能として打ち出していくかをある程度意識しておいた方がいい。
- 暮らしやすさと歴史文化を打ち出す、暮らしやすさと歴史文化について、もう少し書いて欲しい。
- 特に地域の文化については、中部圏は、地域毎に固有の文化を持っている。それを人口減少時代の中で、どのように維持していくかが大きな課題である。それを考えていくために、社会インフラがどうあるべきかという議論も当然必要になると考えるので、地域固有の文化についての記述があるといい。それが、暮らしやすさや住みよさにもつながるはずである。
- 地域ブランドや地域デザインという観点では、ものづくりの付加価値をどう上げていくかという観点においても必要だと思う。ブランド化の話は、地域経済活性化に関して農水省のところには書いていないが、本来は、こういったブランド化の話は、もう少し書かれてもいいと思う。中部におけるブランドの確立というのは、農林水産業に限らず、地域ブランドにおいてもあるし、他の産業においてもあるのではないか。
- 観光にも結びつくが、ルートのお話をさらっとここに書いていただいている。しかも英語で6つのルートが書いてあるが、申し訳ないが、我々自治体はこういうルートに絞っていない。ノスタルジックルートが我々の地域のルートだということをここで初めて知った。
- 地域ブランドを考えて、ドイツのロマンチック街道みたいな形で、昇龍道以外にも売り

出すというのであれば、地域との協力を図りながらやっていくのだということを、打ち出していただきたい。

(奥野座長)

- ・歴史文化の問題は非常に大事だと思っている。第5次国土形成計画について、よく書き物を頼まれたり、話を頼まれたりするが、国土計画というのは、何をやりたいか1つだけ上げろと言われた時に、私は地域の文化を守り育てるということを申しあげている。

(森川委員)

- ・戦略、プロジェクトの書き方についてコメントしたい。
- ・どうみても私には戦略に見えなくて、ものすごく網羅的に色々なことが書かれていると感じる。各プロジェクトを束にして整理したプロジェクトのリストにしか見えない。
- ・戦略というのは1つの目標に向かって、誰が、いつ、どういうことをやれば、何がどんな風が変わって、そこにさらに次の戦術を打てば、相乗効果でこうなって、相手がこう出てきたら、それに対してこうやる。外部的なリスク、例えば地震のリスクがあったら、いつきても最低限のインフラを常に壊れないようにしておく。このように、時系列に、誰が、どうやって、何をするのかということ、シナジー効果が生まれるよう、最終的な目標に結びついていく、その一連の動きだと思う。この資料ではそれが読み取れず、プロジェクトのリストにしかみえない。
- ・これが、本省で求められている書きぶりであればこれでよいが、もし、他の地域がもう少し戦略らしいことを書かれているなら、私が本省の人間なら、そちらの方を評価すると思う。
- ・タイトルの、暮らしやすさと歴史文化に彩られた世界ものづくり対流拠点中部、これはすごくいいと思う。私がここのプレゼンで何度か使った P6 の日本のハートランド中部というものを入れているのだが、私が言いたかった日本のハートランド中部というのは、このタイトルそのものである。
- ・日本の経済エンジンであって、日本らしさが残っていて、暮らしやすさと歴史文化、古き良き日本が残っていて、さらにリニアがきて、ここはど真ん中であって、対流の要になっていく。それが私の言いたかった日本のハートランド中部である。P6 1 ③の所に入れられても、何のことかわからないのではないかな。
- ・もう1つ、私の言った言葉を入れていただいているのは大変ありがたい。しかし、P14 にモビリティセンターと入れていただいているのはいいのだが、ここにモビリティセンターとポンとあっても、何のことだろうと思われるのではないかな。
- ・特に、中山間地域や地方都市においてだが、分かり易い言葉で言えば小さな拠点のことである。なので、小さな拠点も別のところであって、モビリティセンターもここにあると、何なのだろうという気がする。
- ・先ほど、書き方について申し上げたが、そういう目でみていくと、バラバラと同じようなことが違う切り口でたくさん出てきている。
- ・P15 に交通システムについて書かれていて、自動運転の話があるが、自動運転をして、どうするのか。これが地方計画になんの関係があるのか。

- ・私なりに、自動運転の地域計画の使い方が明らかで、まずは、新東名、新名神でトラックの自動運転をやって、これでトラック運転手不足と、交通事故と、物流の円滑化をやって、ものづくり拠点を支えていくものである。
- ・もう1つは、先ほど佐々木委員がおっしゃっていたが、中山間地域でゆっくりなレベルの自動運転をやって、ラストワンマイルを支えて、中山間地域を支えるということである。中山間地域というのは中部圏のキーワードで、中部圏は広大な中山間地域を持っている。この地域をどうするのか。これを、国交省では一言に、コンパクト+ネットワークと言うが、コンパクト+ネットワークは人によって捉え方が異なる。極端に捉えると、中山間地域なんて、お金がかかるばかりで仕方ないから全部人口を都市に持ってこいという乱暴な話から、ほとんど人は動かさない、交通をなんとかそこで保って人を動かさないというような、0から100までが、コンパクト+ネットワークの中に含まれている。
- ・これを、例えば、中部の中山間地域だったらどういう意味でもコンパクト+ネットワークなのか、それをどう支えるのかということがないと、計画にも戦略にもならない。
- ・我々が今取り組んでいるのが、中部の中山間地域で、人をなるべく動かさず、集落単位での若干の集約化だけで持続可能な地域を作ることである。中部の中山間地域は、田畑と家屋が一緒にある中世期以降の、典型的な中山間地域であると専門家に聞いたことがある。そんな伝統的地域で人を動かすのは無理だし、動かすべきではない。このきれいな中山間地域を守っていく、山林も守っていくことが重要だと私は思う。
- ・そこで、高齢化が進み、買い物になかなか行けない、どうやって暮らしを支えるのか。モビリティと医療と買い物が重要で、それをどうやって支えるのか。そこで例えば先ほど言ったゆっくりな自動運転というのが、どういう風に貢献できるのか。
- ・今やろうとしているのは、共助社会という中で、共助で人々を動かして助け合っていくというようなことである。例えば、共助という切り口と、自動運転という切り口、シェアリングモビリティの切り口、こういったものが、中山間地域を支えていく中部の戦略になる、というような書き方なら分かる。ところが、交通のことや小さな拠点のことが、ばらばらとあり、そこにまたモビリティセンターが出てくるので、私には戦略にみえない。
- ・誰が一体何をしようとしているのか、役所でいえば、このプロジェクトの中の、どれが直轄で何省がお金を出そうとしているのか、自治体がやろうとしているのか、それとも、規制緩和をして民間にやってほしいと思っているのか、産官学で少し補助金をあげるからやってほしいのかということが全然見えてこないことも戦略らしくない原因である。

(奥野座長)

- ・今、森川先生がおっしゃったのは、非常に大事な点だと思うが、多分、文章化していく中で、かなり改善されていくのではないかと考えている。
- ・日本のハートランド中部は、いろんな捉え方が出来ると思うので、それがいいところではないか。
- ・まちづくりについては、名古屋にこれば頭脳があるというイメージがこの地域にできればいいと思う。ノーベル賞もそうだし、先日、中日新聞でロボット研究を特集していたが、トヨタは世界最大の研究機関ということであった。そういうことも感じられると

いいかなと思う。

- ・今、いただいたご意見は、これから文章化する中で活かしていただければと思うので、そのように進めていただきたい。

(事務局：大野中部圏広域地方計画推進室長)

- ・皆さまから大変貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。
- ・特に最後の森川先生からは、一番ごもつともだというご指摘をいただきましたので、ご指摘を念頭において、文章化していきたい。
- ・ご意見をいただいた中で、我々も意識していなかったような、いいご指摘をいただいた。物流の重要性や農業の話やスケジュール感の話などを含め、100%はいかないかもしれないが、99%に近づくように検討していきたい。また、個別に各委員とご相談しながら進めていきたいと考えている。

<報告>

(事務局：森山企画部長)

- ・資料3説明

(奥野座長)

- ・今回のご議論は、大変力強い意見が出てきたと思う。
- ・先日、国交省で、各広域圏の広域地方計画を持ち寄って、意見交換をする場があった。
- ・北海道は広域地方計画を法律では作らないということになっているが、総合開発計画を作っていらして、北海道も含めて報告があった。
- ・どこの地域も、地域資源を活かして交流するというのは基本のベースであるが、この地域と首都圏の計画では、日本を牽引するという感覚がにじみ出てくるものだった。特に、この地域は、ものづくりを中心に成長エンジンとなるのだということが打ち出されており、他の地域からため息がでていたが、そのぐらい特色があると感じている。
- ・国土計画では、国土の均衡ある発展という有名なフレーズがあり、半世紀近くにわたりいきているフレーズだが、当初から意味が異なってきた。
- ・当初はどこの地域も同じように社会資本を整備して、同じような生活をしていくのだという意味が高度成長期にはあった。その後、このフレーズは残したが、各地域はそれぞれの資源を活かした特色ある発展をしていくのだという意味合いに変わってきた。
- ・全国どこの地域も同じようにということは、もうどの地域も思っていられない。それぞれの特色を活かすという形に変わってきており、それはいいと思う。
- ・中部の計画は、歴史文化に彩られた中部となっているが、歴史文化のフレーズは、全国計画の中の関西圏の特徴として入れたものが歴史文化である。これが看板であり、関西から歴史文化まで取られたと言われるんじゃないかという気がしているが…。
- ・大変特徴的な良いものができてきたと思っている。今日のご意見を活かしていただき、是非とも文章化を頑張っていただきたい。

(事務局：大野中部圏広域地方計画推進室長)

- ・歴史文化ということで、牧野委員からも色々ご指摘いただいたが、私も色々中部を見て回っていると、山村の過疎地域、例えば先日大鹿村に行ったのだが、そこでは、1,000人ぐらいしか人口で、いまだに歌舞伎を大事に守っている。そういった文化はなかなかないので、そういったものを是非守っていく必要が有ると示したい。
- ・各委員から非常にありがたいご指摘をいただき、是非活かしたい。
- ・今後のスケジュールだが、本日いただいた意見を出来るだけ反映した形で文章化していきたいと考えている。先生方には、個別に伺う、あるいはメール等で対応させていただきたいと思っている。
- ・今後は3回目の中部圏広域地方計画協議会を2月8日名古屋で開催を予定しており、計画原案を策定する予定である。
- ・本日の会議について、進行も含め、色々ご意見があれば事務局までお申し付けいただきたい。

4. その他

(特になし)

5. 閉会

(中部運輸局：鈴木局長)

- ・本日は大変お忙しい中、中部圏広域地方計画有識者会議にご出席いただき誠にありがとうございました。また、ご熱心にご議論いただき、様々な観点から貴重なご意見をいただき、重ねてお礼申し上げます。
- ・この計画は、中部圏と北陸圏を結ぶ、南北軸の強化やリニア中央新幹線の開業などを見据えた長期計画であり、その内容も、行政だけでは行き届かない、多岐にわたる壮大な計画であることから、委員の皆様方の専門的見地からの、多角的、多面的なご意見をいただきつつ作業を進めてきた。有識者会議は今回が最後となるが、これまで皆様方からいただいた大きな貴重なご意見をしっかりと踏まえ、年度末の国土交通大臣決定に向けた計画策定に取り組んでまいりたい。
- ・計画策定後は、その内容の具体化をはかる事で、世界のものづくりの中心である中部圏をさらに発展、進化させ、安心安全で活力のあるよりよい地域づくりを実現できるよう、私ども一丸となって邁進してまいりたい。
- ・本日、ご出席いただいた委員の皆様方におかれては、計画の実現にあたり、改めてご助言を賜る機会もあるかと思うが、その際にはご指導・ご鞭撻のほど、よろしく願いたい。

以上